

令和5年第18回宝塚市教育委員会の会議（定例会）会議録

- 1 開催日 令和5年11月20日（月）
- 2 場 所 宝塚市役所第二庁舎 会議室B
- 3 開会時間 午後4時30分
- 4 閉会時間 午後5時20分
- 5 出席した委員の氏名
五十嵐 孝教育長、木野 達夫委員、松浦 一枝委員及び春日井敏之委員
- 6 除斥した委員の氏名
- 7 委員及び傍聴人を除く、議場に出席した者

管理部長	高田 輝夫	学校教育室長	伴 康史
学校教育部長	坂本 三好	教育企画課長	岡本 進
社会教育部長	番庄 伸雄	学校教育課長	平野 聖幸
		教育研究課係長	岡坂 隆志
- 8 会議の書記
教育企画課事務職員 中瀬 陽子
- 9 議題
報告第11号 専決処分した事件の承認を求めることについて
報告事項 令和5年度（2023年度）全国学力・学習状況調査「宝塚市の結果概要」の作成・配布について

会議の概要

開会 午後 4時30分	
五十嵐教育長	令和5年第18回宝塚市教育委員会の会議（定例会）を開催いたします。 傍聴希望の方はいらっしゃいますか。
岡本課長	おられません。
五十嵐教育長	はじめに、本日の会議より出席いただきます、11月15日より新しく教育委員を務めていただく春日井敏之委員から一言ご挨拶をいただきたいと 思います。 それでは、春日井委員お願いします。
【 春日井委員御挨拶 】	
五十嵐教育長	ありがとうございました。 続きまして、教育委員のご紹介をさせていただきます。
【 教育委員の紹介 】	
五十嵐教育長	それでは次に、教育委員会事務局職員の紹介をさせていただきます。
【 教育委員会事務局職員の紹介 】	
これからよろしくお願いします。 それでは改めて、会議を進めさせていただきます。 本日の署名委員は木野委員でございます。よろしくお願いします。 本日の付議案件は、報告事項1件、議決事項以外の案件1件です。 なお本日は、石井委員から欠席の通知を受けました。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、過半数の委員の出席がありますので、本会が成立する旨報告いたします。 それでは、進行について事務局からお願いします。	

岡本課長

本日の付議案件は、報告第11号 専決処分した事件の承認を求めることについて（令和5年度教育委員会所管一般会計補正予算（第5号）（案）の提出について意見を申し出ることについて）、報告事項 令和5年度（2023年度）全国学力・学習状況調査「宝塚市の結果概要」の作成・配布について、です。

審議の順番としましては、報告第11号、報告事項の順でお願いします。
ご審議のほどよろしくお願いいたします。

五十嵐教育長

それでは、報告第11号 専決処分した事件の承認を求めることについて（令和5年度教育委員会所管一般会計補正予算（第5号）（案）の提出について意見を申し出ることについて）、担当課より説明をお願いいたします。

岡本課長

報告第11号 専決処分した事件について御説明申し上げます。

本件は、令和5年度一般会計補正予算（第5号）（案）のうち、教育委員会関係予算に関しまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、市長に次の予算案をもって意見を申し出るものです。

本来であれば教育委員会の会議において御審議いただくべきものですが、財政当局による予算査定の進捗や都市経営会議の日程を踏まえ、市議会への提出までに教育委員会を開催することが困難であったことから、宝塚市教育委員会事務決裁規則第7条第1項に規定する「緊急やむを得ないとき」に該当するとして、専決処分したものです。

令和5年度教育委員会所管一般会計補正予算（第5号）（案）につきましては、お手元の資料をご覧ください。

歳入予算に35,714千円（3571万4千円）を減額し、総額を1,601,764千円（16億176万4千円）といたします。また、歳出予算に33,128千円（3312万8千円）を増額し、総額を5,122,783千円（51億2278万3千円）とするものです。

各課の補正内容で増減につきましては、次のページ第1表としまして記載しています。こちらの内訳としましては、先ほど配りましたA4横の表をご覧ください。内容につきまして、歳入が9件、歳出が14件となっております。

ます。

ご説明いたします。まずNo.1とNo.7、あと横の方に縦列でNo.を記していますので、そちらをご覧ください。No.1とNo.7、No.11とNo.13が教育企画課と学校教育課、中央・西図書館に対していただいた寄付金を歳入に計上しております。寄付金につきましては、各企業や自治会、商工会議所等からいただいた寄付金を活用しまして、学校では図書等の購入や歌劇鑑賞を行い、図書館では図書を購入します。

続きましてNo.4、施設課の歳入につきましては、競馬場高丸線の道路拡張工事に伴い、隣接する仁川小学校のグラウンドの一部を売り払う収入見込みを当初予算に計上していたところ、売買契約締結に伴い収入額が確定したため、その額に合わせて減額するものです。

続いてNo.9、No.12とNo.15は、社会教育課、中央図書館、スポーツ振興課にて新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の歳入を計上しております。交付金を活用し、物価高騰に伴う光熱費の増額対応として指定管理者に支援金を支給するものです。社会教育課では公民館と宝塚自然の家、中央図書館では図書館の本を置いている西谷会館、スポーツ振興課ではスポーツセンターや末広体育館やグラウンドの指定管理者に支給します。

最後にNo.14スポーツ振興課の歳入につきましては、企業版ふるさと納税による寄付金を計上し、歳出にはハーフマラソン実行委員会への補助金の増額分を計上するものです。

説明は以上です。

五十嵐教育長

ありがとうございました。

只今の件についてご質問ございますか。

では、寄付金について少し説明して欲しいのですが、教育企画課、学校教育課、中央図書館、西図書館について個人や企業からの寄付でしょうか。

岡本課長

まず、教育企画課と学校教育課の寄付金の合わせて150万円ですが、こちらについては企業の方からいただいたものになります。それ以外のものにつきましては、自治会からの寄付金でございます。

社会教育課の寄付金は番庄部長よりお願いします。

番庄部長 西図書館で、社会教育に対する寄付金ということで10万円を計上しています。この寄付は、市内で眼科医をされている方がおられて、目の不自由な方に対して拡大図書の購入費用の助成として基金を設けておられます。通称「広辻基金」と言いまして、広辻眼科というところで、先代の先生が残された遺産を使って公益財団を設立されてまして、寄付金として配布しているということで申し込みました。西図書館の大きな文字の図書を買うのに充てることにしました。

それが10万円です。企業というよりは、民間の公益基金というところからの歳入になります。

岡本課長 あと、学校教育に対する寄付金の内、No.8の件、宝塚歌劇の鑑賞費用の寄付ということで、商工会議所からいただいています。

五十嵐教育長 No.14スポーツ振興課のふるさと納税に係る寄付金について、寄付金の仕組みは具体的にはどのようなものですか。

番庄部長 50万円ですが、ハーフマラソンを5年ぶりに再開するというので、企業の方に呼びかけまして、ふるさと納税のような形で税制優遇のついた寄付を市として募集したところ、企業版ふるさと納税として50万円、申込件数は分かりませんが寄付の申し込みがありました。いただいた寄付金50万円をハーフマラソンに充てていただきました。

五十嵐教育長 企業版ということは、個人版もあるのですか。

番庄部長 個人版もあります。

岡本課長 個人版というのは、我々が年末にふるさと納税をして自治体より返礼品をもらうというのが個人版のふるさと納税になります。それと同じような形で企業版ふるさと納税というのがあります。

五十嵐教育長 では個人版も、寄付額の内この分はハーフマラソンに、というようなお金の流れが来ているのですか。

番庄部長 個人版ふるさと納税の場合一般財源化されるため、寄附額の内、いくらハーフマラソンに充てられているかは不明ですが、歳出774万円から歳入50万円を引いた差額の部分は一般財源が充てられています。

五十嵐教育長 いくらかそこで応援していただいている方もいらっしゃるということで

	すね。
番庄部長	企業版・個人版のふるさと納税を募集しましたところ、合わせて100万円ほど寄付いただきました。その内20万円ほどが返礼品に充てられ、残りの80万円くらいが一般財源化され、そのいくらかが歳出の774万円に充てられています。
五十嵐教育長	他に何かありませんか。
春日井委員	確認ですが、No.4の不動産が関連する収入で、補正前と補正後で1/2以下になってしまっているのですがこれは何故ですか。この額の、当初の予定と実際に売れた額の差というのはなんですか。 当初予定した額よりも1/2以下でしか売れませんでした、ということですか。
岡本課長	そうですね、この1億3千900万円が全て仁川小学校のグラウンド分だということで予算を計上していたなら、市の歳入はマイナス補正ということになりますね。ただ、これは市長部局との売買になりまして、外に対して売った訳ではないので、基本的には市の不動産評価委員会の方で金額査定された上で確定されたものだと理解しています。
春日井委員	内部の売買であれば余計、何故こんなに当初設定額と売却額にずれが出てしまったのかなと思いました。
五十嵐教育長	これは担当課に聞いても分からないのですか。
岡本課長	そうですね、確認します。
五十嵐教育長	他にご質問ご意見はございませんか。 よろしいでしょうか。 それでは、報告第11号 専決処分した事件の承認を求めることについて（令和5年度教育委員会所管一般会計補正予算（第5号）（案）の提出について意見を申し出ることにについて）は、ご承認いただけるということによろしいでしょうか。
委員	（承認）
五十嵐教育長	ありがとうございます。 続きまして、報告事項 令和5年度（2023年度）全国学力・学習状

況調査「宝塚市の結果概要」の作成・配布について、担当課より説明をお願いいたします。

伴室長

それでは「令和5年度（2023年度）全国学力・学習状況調査結果から（宝塚市の結果概要）の作成・配布について」ご説明させていただきます。

令和5年4月18日（火）に実施された全国学力・学習状況調査の、宝塚市の結果データにつきましては、本年度も教育委員会事務局メンバーと大学教授による「学力調査分析チーム」によって分析を進めてきました。このたび、「宝塚市の結果概要」をまとめましたので報告します。なお、このデータは、12月上旬を目途に、宝塚市教育委員会のホームページに掲載し、どなたでも見られるようにします。また市立小・中・特別支援学校の保護者と、幼稚園・小・中・特別支援学校の教職員には文書で紹介します。

それでは、お手元の冊子の1ページ目から説明します。1番目には、調査の目的を、2番目には調査の対象人数や調査内容を、3番目には、本市・本県・全国の各教科の平均正答率と、全国平均と比較した宝塚市全体の傾向を掲載しています。平均正答率については、昨年度の結果も参考として掲載しています。小学校国語・中学校国語は「おおむね良好」、小学校算数、中学校数学・英語は「良好」という調査結果になりました。

2・3ページについては、質問紙調査結果より「学習に対する関心等」「各教科の調査時間の適切性」「規範意識・自己有用感等」「生活習慣・学習習慣」「読書への関心等」の領域に関する質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した児童生徒の割合を掲載しています。また本市の「重点施策」に該当する項目には「重点施策」の番号を掲載しています。今年度より、結果が全国より5P以上高いものについては青マーカーで、5P以上低いものについては黄色マーカーで枠を塗り、特徴や課題を見えやすくしました。結果はどの領域でも、ほぼ全国並みの項目が多くなっています。

「各教科の調査時間の適切性」の領域における質問では「解答時間は十分でしたか（国語）」の割合が全国に比べて低くなっています。これは後ほどお伝えする「教科に関する調査結果」の「無解答率」とも関係していると考えられます。この無解答率は、問題が後になるにつれ高くなっています。これは「自分の考えをまとめること」等の課題ももちろんありますが、「時間配分ができていないこと」も一因となっていると考えることもできます。

例年、「規範意識・自己有用感等」の領域における肯定的な割合が低いことが本市の課題でした。特に「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目は肯定的な割合がさらに高くなるように、学校生活の様々なシーンで伝えていく必要があると考えています。また、今年度も昨年度に引き続き「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問は、肯定的に回答した児童生徒の割合が高いのですが、「将来の夢や目標を持っていますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問においては昨年度同様、割合が低くなっています。「今住んでいる地域の行事に参加していますか」については、それぞれの地域において特色があるため、市内全小・中学校の一覧（別紙1）をつけさせていただきました。以前の教育委員会でご依頼いただいたものです。一緒に分析した大学教授からも「地域により行事やイベントの回数温度差があるため、学校教育で結果を上げることは難しい」とご意見をいただきました。ただし、地域や社会に関心を持てるように、授業等で取り組んでいくことは続けていきます。また「読書への関心等」の領域のグラフからは、特に中学3年生で読書を「全くしない」と答えた生徒の割合が、昨年度よりも4P増えています。これについては課題であると認識し、読書離れにつながらないよう、引き続き事務局としても取り組んでいきます。

4ページについては質問紙調査結果より「ICTを用いた学習時間等」の領域に関して、利用時間ごとの児童生徒の割合を示しています。「前学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目では、全国に比べ使用時間が大幅に少ないことがわかりました。これについても、以前の教育委員会でご依頼いただいた市内全小・中学

校の結果一覧（別紙2）をつけさせていただきました。これからの教育において「個別最適化」や「協働的な学び」は求められていますが、それを実践するためにもタブレットPCは効果的なアイテムです。この結果における原因は様々だと考えていますが、ICTの授業での活用推進に向けて、環境整備や研修を充実させていくとともに、学校でも状況を把握していただき、有効な活用につなげていただきたいと思います。

5ページについては、「授業改善に関する取組状況」を掲載しています。今までの調査からも《主体的な学び》《対話的な学び》の質問に対し、肯定的に捉えているほうが学力向上につながるということがわかりました。このことから、「主体的で対話的な深い学び」を構築できるような授業づくりをさらに深めていきたいと考えます。

6～10ページについては、「教科に関する調査結果より」分かったことを掲載しています。それぞれの教科で、学習指導要領の領域別に本市と全国の正答率を表し、「宝塚市の傾向」「よくできていること」「課題と学びのポイント」をまとめました。教職員には「学びのポイント」で示した授業方法や、国立教育政策研究所から提案されている「授業アイデア例」を参考にしながら、授業改善等につなげることで課題の克服に努めていただきたいと思います。

最後の11ページについては、「宝塚市の児童生徒の学習と生活の充実のために」とし、「第2次宝塚市教育振興基本計画」の基本目標や重点施策を紹介し、教育委員会として取り組む方向性を示しています。

この「宝塚市の結果概要」は宝塚市教育委員会のホームページに掲載し、宝塚市立小・中学校を通じて児童生徒、保護者、教職員に紹介すると共に、広く市民の皆さんにも見ていただけるようにします。教職員に於いては宝塚市の教育課題を共有し、幼小中の連携を意識した取組の参考資料にもしていきます。

今後も子どもたち一人ひとりを大切にする教育をより一層推進し、ふるさと宝塚を大切にする人づくりに取り組んでまいります。

ありがとうございました。

五十嵐 教育長

木野委員

今年度の全国学力学習状況調査についての結果概要でございます。

ご意見ご質問はございませんか。

木野委員。

意見というよりは、感想です。

毎年、拝見させていただいていますが、数学に強い傾向があるようですね。国語が今回特に気になるのですが、平均正答率では全国に劣っているということはないですけど、「国語の勉強が好きですか」というところでは、中学生は凄く低いですね。「読書は好きですか」というところ、小学生は高いけど、中学生になると全国を下回ってしまいますね。5ページの「学級の児童生徒との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできていますか」というところ、中学生はかなり全国より低いです。この辺りを見ていますと、中学生になると入試勉強に力を入れて数学とか英語には力を入れるけども、国語がおろそかになっているんじゃないかと、その辺りが前から気になります。

五十嵐教育長

ありがとうございます。

ご指摘いただいたことは、本当にその通りですね。

一方この調査が始まった時に、本市の質問紙の中から出てきたのが自己有用感といいますか、規範意識、そういうものが非常に低かったんです。それは随分改善されてきたと思っているのですが、その辺の傾向というのはどうですか。以前こうだったものが、今はこうだという。一言でいうとどういうイメージでしょうか。

岡坂係長

一言でいうと、一時期、最初の方は低かったものの少しずつ全国平均に近づき、ここ数年は全国平均に近い数値になってきて留まっている状態です。

五十嵐教育長

一方で国語と言うのは、小学校ではほとんどの学校で研究する中心科目で、よく取り組まれていると思うのですが、確かに国語、結果としてあまり良くないと思います。更に気になるのは調査時間のところ、小学校も中学校も国語は時間が足りなかったという結果が気になりますね。その辺はどう分析されていますか。

岡坂係長 先ほど室長の方から報告をいただいておりますが、大きい問題、小学校国語では大問が3つあります。大問2つまでの無回答率は全国とあまり変わりません。ただ大問3になったところで、全国と比べてもかなり高い無回答率になっています。こういうところからも、昨年度も同様のところではあったのですが、時間配分のところも原因ではないかと思っています。大きい3番の、例えば記号の問題、そういうところでも無回答が目立っていますので、大きい3番まで解くことができなかった児童が、時間が足りなくて出来なかったのかなと思います。もちろん、読解力だとかそういう所をどんどん鍛えていくことで、制限時間内で出来ると思うのですが、今のところはそうに考えています。

五十嵐教育長 こういうテストに慣れていないということですか。そういう訳でもないですか。

岡坂係長 確かに小学生は、こういうテストに慣れてないと思います。

五十嵐教育長 他にご意見ご質問があればお出してください。

松浦委員。

松浦委員 I C Tを用いた学習時間が大幅に少ないということで、以前からも何度かこの会議でも議題に上がっていましたが、要は使わない先生がほとんど活用しないままで、それに対して研修をやっていきますということでした。その後、どこで先生が活用できないのか、恐らくパソコンのスキルがということより自分の授業をプレゼンテーション資料みたいにするところが難しく感じるのか、そもそも I C Tの授業に抵抗があるのか、その辺り、何か把握されていますか。

伴室長 昔からの考え方をお持ちの先生であれば、チョークと黒板があれば十分授業ができるということでそこから抜け出していない。先日も先進校に視察に行かせていただいたのですが、最初のとっかかりのハードルが高くて手間がかかるということですが、そこを超えた時に便利になる。それが分かってくれば多分授業でもどんどん使っていけるし、子どもたちも楽しく授業できると思います。そのとっかかりの所をどう乗り越えるか、ということだと思っています。その有効性、有用性を先生方に理解してもらう

ために、今までは操作研修が多かったのですが、実際にこのソフトやアプリを使えばこういうことができますよ、こういう子どもたちに活用できますよ、こういうところ便利です、という研修をしないといけないと思っています。研究課としては、そういう研修の取り組みをすべきだと考えています。

松浦委員

そうですね、最初からいきなり授業そのものをやってくださいというよりは、色んな使い方があるので、せめて1日1回何かで使うとか、色んな提案をしていければいいのかな、と感じました。

五十嵐教育長

ありがとうございます。

この件は、9月議会でも随分厳しく追及されました。教育委員会のマネジメントがなってない、と問われました。ごもっともだと思っています。現場にちゃんとICT機器を導入している訳ですから、それをどう活用するかというのはもう少し事務局がリーダーシップを発揮して「こんなこと」「あんなこと」も出来る、「こういうことはどうでしょうか」と提案していかないといけないでしょうし、実態調査でどんな状況か、きちんと学校、あるいは担任の先生に聞き取るという作業も出来ていなかったですし、今、慌ててそれをしているところです。

春日井委員

今、ご指摘のタブレットの活用は、タブレットというのは目的ではなく「手段」なんですよね。ツールにしか過ぎないわけですよ。それがどういう学びに有効かというのが2つあって、1つは「個別の学び」ですよね。個別の学びに有効性があるのではないかな。もう1つは探求型の「協働の学び」に有効ではないかな。それぞれでどういった使い勝手があるのか、利活用方法があるのか、具体的な現場の先生がイメージしやすいような実践であったり、そういう辺りのサポートがいるのかもしれないな、と思って聞いていました。ただこれは気をつけないと、楽しくやってみただけ学びの結果がどれだけ定着しているのか、というと、逆に不安な面もあるように思います。色々映像見たりしてわいわいとやって楽しかったけど、どういう風に基礎的な知識理解が定着し、どういう風に子どもたちの思考が深まり学びの協働化が進んだのか、ということの検証も必要だと思います。国

語が先ほどご指摘の結果と、5ページの授業改善に関する取組状況のところを見ると、数学や英語みたいなインプットしてアウトプットして正解が分かり易いという科目ではなくて、まさに探求型の学びで答えは1つではないだろうし、場合によっては皆で学びを深める、協働の学びを深める、色んな意見があってそれを交わし合うという、その授業改善の課題も大きいのではないかと思います。タブレットをどう使うかという以前に、普段の授業が思考力を高めたり、皆で協働して探求型の学びをしたり、それがしやすい科目だけど、そこが十分できていないかもしれないなと思いました。国語でも正解があってどう読み取るかとか、漢字が何点取れるかとか、そういう側面も大事は大事ですが、その辺りの授業方法で国語が求めているような思考力や協働の学びや探求型の学びがどのくらい出来ているか、1番問われやすい科目かもしれないなと思います。そこでタブレットをどう活用するか、というのは次の課題、別の視点からの課題じゃないかな。その両方、視点としては大事かなと思います。日常の授業改善と、そこにタブレットがどう有効なのか。その時も「個別の学び」と「協働の学び」とでどう使い得るのか、という議論を丁寧にすればいいと思いました。

五十嵐教育長

ありがとうございました。

私もこの間、ICT機器を活用した授業をする研究会を見に行かせてもらいました。どのクラスでもよくタブレットを使って授業しているのですが、後で行われた分科会の中で先生が仰ったのは、うちの学校はこの取組の中で、先生は授業でICT機器を活用できるようになりました。でも問題なのは、それが子どもの学びを確立させているかどうか、という所なんです。これまでそういうICT機器が無かった時に、先生方は何十年も授業を子どもたちに主体的な学びをさせるために、どういう順番で授業を構成するかとかを考えてきた中で、それを抜きにしてICT機器の活用だけで授業をすることは考えられない。もう1回その学びをしっかりと、ICT機器を使いながらどう作るかということに今は力を注いでいます、と仰ったのですが、まさにその通りだと思いました。本市の場合、ICT機器を使うところから出来ていないので、まずは先生方にこの有用性を活かし

てもらいながら、子どもと一緒に使う機会を増やしてもらうのが1番だと思うので、とりあえずはそこから校長先生を中心にやってください、とお願いはしているところです。年度末に様子をまた見に行くのもありかな、と思っています。

他にご意見ご感想はございませんか。

春日井委員

文科省は、学びの協働とか個別最適の学びとかタブレットの活用とか言っていたけど、コロナの影響が大きくてその学びの形は頓挫しましたよね。今日も非常勤講師の先生から電話があって報告を受けましたが、学生もペアワークとかグループワークが出来なくなっています。人前で意見を言いづらいとか、2人ペアは凄くしんどいとか、それはタブレットの活用以前の問題なんです。子どもたちは失敗付きの練習も含めて、お互いに関わり合って学ぶみたいな経験が、あまりにもコロナ禍に乏しかった。特に小学校4年生になっている学年とか、中1、高1の学年とか、その影響を受けています。3年間コロナですからね。この辺りも踏まえた学びの工夫や、お互いを繋げていく学びの工夫が必要だな、そこへタブレットがどういう風に使えるかな、という子どもの現状を踏まえてどう使えるか、という辺りの発想も大事だなと思いますね。子ども同士がお互いに関わりあうとか、今までマスク生活でそんなことしていなかったから。素顔も分からないし。だから漢字や言葉がなかなか出てこない状況が出てきてるじゃないですか。いきなり探求型の学びを皆でグループワークしようと言っても、かなりしんどい状況が大学や高校の学生を見ていて実態としてあります。

ましてや小学校中学校というのはそういう点ではもう一工夫、意識的に色々な機会にお互いのことが分かりあえたり、授業の工夫と授業外での関わり具合を深めることが大事じゃないですか。そこが一体化して、お互いが分かりあえて学びを深め合えることもあるかな、そんな視点も大事だと思います。

五十嵐教育長

ありがとうございます。この間見てきた授業で言うと、ぜひ、うちでもやった方がいいと思ったものに、共同編集できるアプリがあります。2年生の子どもが、自分の校区を周ってタブレットで写真を撮ってきますよね。

3人のグループが同じコースを回って写真を撮り、別のグループの子に知らせるために沢山撮ってきた写真を整頓しようという作業をしていたんですよ。3人の子どもが皆それぞれタブレットを持っていて、画面を共有しながら「これいらんから消そうよ」と1人の子が消そうとすると、他の2人の画面からも画像が無くなる訳です。ちょっと待って、と。そっちは残してこっちはいらんよ、という具合に結構活発に協働的に意見を交わしながらどんどん作業を進めていくんです。あれを見ていると、いままでには無かった勉強の仕方だな、と思いました。子どもたちはすごく楽しみながらやっているんですが、画像を削る基準はちゃんと皆持っていて、それに対して意見が違うと対話が生まれるんですね。それちょっと待って、とか、何で、とか言い合いながら。それで15分物凄く盛り上がっていて、面白いなあと思い見ていました。あくまでもスキルとしてそういう活動をする中で、それぞれ個別最適の学びの実行も出来ているし、対話的な協働的な学びもその瞬間は起こる。それが授業としてどうなるか、という所はさっき申し上げたとおり、もう少しきちんと検証していかないといけないところですが、確かにツールとして有効だな、と実感しました。そういう場面を現場の先生方に「こんな風に使えるよ」ということを、もっと私たちが周知していくことが大事な、と思います。

この件については、よろしいでしょうか。

それでは、この件は以上とします。

岡本課長

先ほどの補正予算の所で、春日井委員よりご指摘のありました不動産の売払料のところですが、施設課に確認にしましたところ、元々市長部局の都市安全部の道路政策課が売買契約以前の段階で139,486千円という価格を見積もりましたが、面積も一切変わらずに、その後、鑑定を取った結果、原価としてその金額になったということです。施設課としては、その金額に沿って今まで予算の処理をしていました。何故このような売却額になったのかは市長部局に聞かないと分からない、ということです。議会への説明も含めて、基本的には都市安全部で対応いただくということになっています。

五十嵐教育長 ありがとうございます。

番庄部長 もう1件だけ。先ほど補正予算のところ、企業版ふるさと納税50万円は内訳を答えられなかったのですが、株式会社1社から寄附金としていただいた、ということです。個人から集まってきたお金は、一般財源という仕組みでございます。

五十嵐教育長 ありがとうございました。

本日の予定の案件は以上ですが、他にご報告いただくことはございますか。

岡本課長 ございません。

五十嵐教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 5時20分
